

## 第9回【野菜編（6）】

果菜類のカボチャ、シロウリ、マクワウリの細密画から当時の府立農事試験場の試験研究を探ります。これら果菜はそれぞれ煮食、漬物、果物として消費される農作物として、主に収量に関する品種比較試験が明治37（1904）年頃より始められました。

東京府における大正後期から昭和初期にかけてのカボチャの生産事情をみると、カボチャの作付面積が最も大きい地域は北豊島、荏原郡で、豊多摩、北多摩郡が続き、「居木橋南瓜」の縮緬種\*と「内藤南瓜」の菊座種\*が栽培されていました。シロウリは豊多摩、北豊島、南葛飾郡の作付面積が大きく、奈良漬用の品種「大越瓜」と「早生青越瓜」が栽培されていました。その中で南葛飾郡では切縞\*<sup>1</sup>（キリシマ）種と丸葉種\*<sup>2</sup>の栽培面積が増加する傾向にありました。マクワウリは、豊多摩、南葛飾郡の作付面積が大きく、品種は「金甜瓜」と「銀甜瓜」が主流でしたが、「黄棗瓜」が増加傾向にありました。そのほか一部地域では「成子（鳴子）甜瓜」が栽培されていました。\*：異品種間で自然交雑したカボチャの中には外皮模様が縮緬ではない、あるいは底面が菊座形をていしていない派生種があった。\*<sup>1</sup>：果の外皮が切り込み状の縞（キリシマ）模様を呈するものと思われる。\*<sup>2</sup>：品種の中には葉形が丸葉（丸葉種）や切れ葉（切葉種）であるものがあつた。

今回ご紹介する細密画はカボチャ、シロウリ、マクワウリの一部です。カボチャの細密画は5品種7点、シロウリは6品種（あるいは派生種）4点、マクワウリは5品種4点が残されています。

明治37（1904）年より昭和19（1944）までの40年間にわたりカボチャの品種比較試験が行われました。その間に扱われた品種（あるいは派生種）数は48で、大正中期まで日本在来種の「内藤南瓜」や「居木橋南瓜」などが試験栽培の中心でしたが、昭和期に入ってから「雑司ヶ谷南瓜」や「鹿々谷南瓜」などのほかに西洋種の「デリシャス」や「甘栗南瓜」に試験の中心は移りました。

シロウリの試験栽培は第二分場（南葛飾郡金町柴又 [photobook.pdf \(tokyo-aff.or.jp\)](http://photobook.pdf(tokyo-aff.or.jp))) において行われ、明治36（1903）年から大正8（1919）年まで「大越瓜」や「早生越瓜」、キリシマ種など17の品種（あるいは派生種）について比較試験が行われました。奈良漬用のシロウリは「大越瓜」と呼ばれる大型のものが主流だったようで、細密画にある奈良漬用越瓜の長径を計測すると38cmもあります。

同じく第二分場ではマクワウリの試験栽培も行われ、大正中期までに14の品種について比較試験が行われました。明治後期では「金甜瓜」、「銀甜瓜」のほかに「梨子甜瓜」「鳴子甜瓜」が試験の中心でしたが大正中期より試験品種は「金甜瓜」のほかに「黄棗瓜」や「天津」に移りました。品種比較試験のほかに、大正13（1925）年には「金甜瓜」と「黄棗瓜」にマスクメロンを交配する品種改良試験が始められましたが、固定化が難しく品種改良には至らなかったようです。また、カボチャについても「内藤南瓜」の改良試験が明治後期より行われましたが、目覚ましい成果は上がりませんでしたようです。そうした中で受粉不良による果実の生育不良を避ける花粉媒助（人工授粉）試験が明治37年に行われました。その有効性は個数も重量も増収となることで確認されました（写真1）。

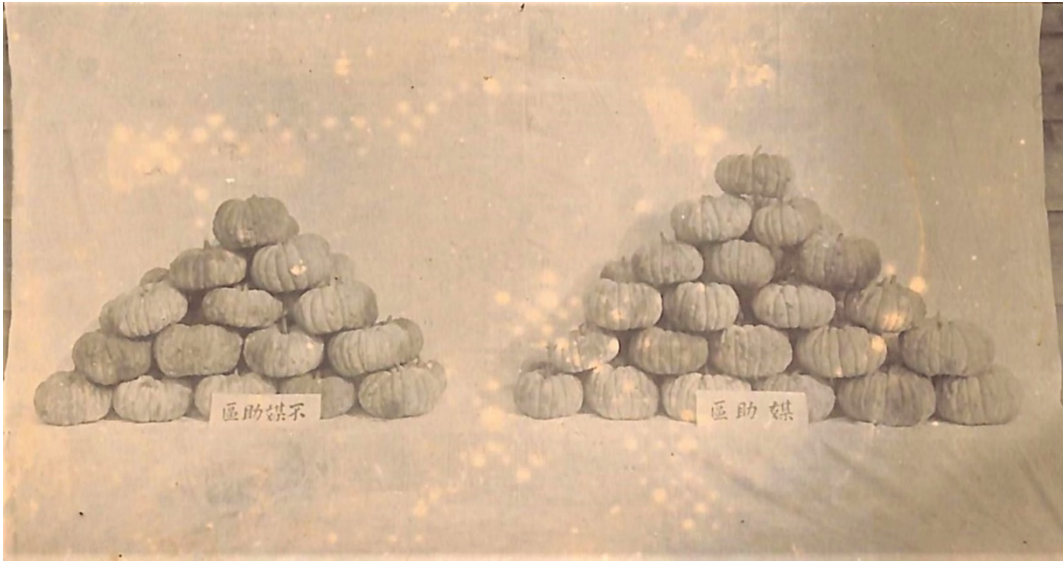


写真1 南瓜花粉媒助試験：右は花粉媒助区、左は花粉不媒助区（農事試験成績略報第九より抜粋）

#### 引用・参考資料

- ・東京府.東京府の産業（農業）其一園芸.東京府.昭和4年.p51-57.
- ・篠原捨喜・富樫常治共著.蔬菜園芸図編.養賢堂.昭和27年.p280.
- ・大和陽一.農業技術大系.野菜編.2007年.第5巻.基+126の3.
- ・東京府立農事試験場.農事試験場成績略報：第六から第十まで.
- ・東京府立農事試験場.業務功程：大正3から昭和13年度まで.

カボチャ、シロウリ、マクワウリ細密画一覧（第9回）

細密画	品種名（読み仮名）	収穫期 （始－終）	細密画	品種名（読み仮名）	収穫期 （始－終）
カボチャ					
	内藤南瓜 （ナイトウカボチャ）	7月上旬－9月下旬		テーブルクキン	記録なし
	居木橋南瓜 （イルキバシカボチャ）	7月上旬－9月下旬		甘栗南瓜 （アマクリカボチャ）	記録なし
シロウリ					
細密画	品種（派生種）名 （読み仮名）	収穫期 （始－終）	細密画	品種（派生種）名 （読み仮名）	収穫期 （始－終）
	右) 早生小白 （ワセコジロ）	記録なし		右) 丸葉 （マルバ）	記録なし
	左) 霧島 （切縞あるいはキリシマの誤記で読み仮名はキリシマ）	記録なし		左) 切葉 （キリバ）	記録なし
	奈良漬用越瓜 （ナラヅケヨウシロウリ）	7月上旬－9月上旬			
マクワウリ					
細密画	品種名（読み仮名）	収穫期 （始－終）	細密画	品種名（読み仮名）	収穫期 （始－終）
	鳴子 （ナルコ）	記録なし		天津 （テンシン）	記録なし
	右) 金甜瓜 （キンマクワウリ）	7月下旬－9月中旬		芝麻蘇 （不詳）	記録なし
	左) 棗瓜 （ナツメウリ）	7月下旬－8月下旬			
参考資料	農事試験成績略報：第七・八・九・十・十一・拾参・拾四・拾六 業務功程：昭和6年度から13年度まで				